

## 1 目的と期待される効果

### (1) 目的

普通科の教育課程において、地理歴史、公民に関する各科目の内容をグローバル・リーダー育成の目的で編成し直した学校設定教科「グローバルラーニング（GL）」を設定する。当該学校設定教科の学習を通して、日本と世界の諸地域の歴史・伝統や言語・生活・文化の地域的特色への興味・関心を高め、基本的な概念や制度、人間の生き方等について理解を深めるとともに、国際社会で活躍する上で必要な思考・判断・表現する能力、語学力、語彙力、コミュニケーション能力を養う。

### (2) 期待される効果

この科目の学習を通して、グローバルな社会課題に対する関心と解決に向けた意欲が高まり、探究心、コミュニケーション能力が身に付くことが期待できる。

## 2 内容

次の①～⑥を学校設定科目として設定する。

- ① GL世界史（世界史Bの代替）普通科1年
- ② GL日本史（日本史Bの代替）普通科2年（選択）
- ③ GL地理（地理Bの代替）普通科2年（選択）
- ④ GL倫理（倫理の代替）普通科3年
- ⑤ GL政治・経済（政治・経済の代替）普通科3年
- ⑥ GLアクティブ（原則として週時程外で実施）普通科1～3年

## 3 実施方法

上記の①～⑥学校設定科目については、代替する科目の内容をグローバルな視点を重視して見直し、積極的にICT機器を活用して、アクティブ・ラーニングを取り入れて実施する。

なお、⑥「GLアクティブ」は、国内グローバル研修、海外グローバル研修、大学や企業、研究施設等における講義や講習等の出席状況や研修成果、活動状況等を評価に加え、単位を認定する。

## 4 検証評価方法

入学した直後に普通科の生徒及び保護者に対して「グローバル・リーダー」に関するアンケート調査を行う。1年後、2年後に同様のアンケート調査を行い、変容を見る。調査結果はSGH運営指導協議会で検証し、評価する。また、教員にもアンケート調査を4月及び年度末に行い、教員の意識の変容を見る。さらに、卒業時の大学進学実績をこれまでのものと比較検討し、検証評価する。大学卒業後についても、追跡調査を行う。

## 5 実施内容

### (1) 「GL世界史」による「GLアクティブ」との科目横断的授業

昨年と同様、グローバルな課題を取り上げ、その課題を世界史からの視点で考察する授業を展開するとともに、「GLアクティブ」との科目横断的要素を取り入れた授業を実施した。授業については次のとおりである。

## 「GL世界史指導案」

### 1 単元名「イスラーム世界の形成と発展」

### 2 単元全体の指導計画

- (1) イスラームの成立について理解する。
- (2) イスラーム世界で起きている問題の形成に関わる歴史について主体的にわかろうとしたり、問題の解決に向けて構想したりする力を身に付ける。

### 3 単元目標

- (1) イスラームが宗教として成立していく過程を理解する。
- (2) イスラームがウンマを形成し領域を拡大することを理解する。
- (3) イスラームの教えがムスリムの生活の一部であると理解する。

### 4 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入 7分	・隣同士二人組となり前回の学習内容を1分間で説明する。	・イスラームの成り立ちについての基本事項の要点を短時間でまとめて、相手の的確に伝えられるように意識させる。	
展開 38分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業を通して、イスラームについて感じたことや考えたことについてまとめる。</li> <li>・「GLアクティブ」に参加し東京ジャーミイを見学した生徒がクラスで発表する。</li> <li>・発表の内容を踏まえて、イスラームについて気付いたことや新たに知り得たことをグループで話し合う。</li> <li>・グループごとに発表し、気付いたことについてメモを取る。</li> <li>・イスラームについて感じたことや考えたことについてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書かせる。</li> <li>・発表を聞きながらメモを取らせる。</li> <li>・4人のグループを作らせて話し合わせ、気付いたことをワークシートにメモをとる。</li> <li>・発表を聞く前と聞いたあとでのイスラームの捉え方の変容について確認させる。捉え方が変わった理由も書かせる。</li> </ul>	<p>話し合いを通してイスラームについて知り得たことをより深化させようとしている。【関心・意欲・態度】</p> <p>考え方の変容等の根拠となる知識を身に付けたりイスラームについて理解している。【知識・理解】</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめと次時の内容を知る。</li> <li>・自己評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時はイスラームの発展について学ぶことを予告する。</li> <li>・自己評価を行わせて回収する。</li> </ul>	

### 5 評価手法

- (1) 東京ジャーミイを見学した生徒の発表を聞き、グループで話し合ったことを記録したワークシートにより、ルーブリックで評価する。

- (2) イスラームについて今まで抱いていた考えと、授業でイスラームに係る知識・理解を得た上で、イスラームについての考えを書かせ、ルーブリックで評価する。
- (3) 自己評価カードを配付し、活動を振り返ってABCで自己評価させ、理解について自己点検させるとともに、指導者の振り返りに役立てる。

6 ルーブリック 項目の【 】は、本校で身に付けさせたい能力等である。

項目	A (3)	B (2)	C (1)
異文化についての捉え方  【探究心】 【コミュニケーション能力】	メモを取りながら報告を聞き、質問を積極的にするとともに、グループで意見を出し合いながら、新たな気付きや知識等をまとめることができる。	メモを取りながら報告を聞き、グループで意見を出し合いながら、気付いたことや知識を確認することができる。	報告を聞く際にメモをとることができず、グループでの話し合いについても意見を出すことができない。
異文化についての考え方  【思考・判断・表現】	確かな知識や理解を根拠にして異文化を捉え上で、異文化について考えを深めることができる。	確かな知識や理解を根拠にして異文化を捉えることができる。	確かな知識や理解が不十分なまま異文化を捉えている。

【イスラームの授業全体を通しての生徒の感想】

- ・国内でも世界でも「イスラム教徒」を誤解している人は多いと思う。そしてそのまま片付けて考えることを止めている気がする。イスラム教徒でもキリスト教徒でも同じ人間であることには変わりがないのだからお互いを理解し合うことが大切なのではないかと思う。

**(2) 「GL地理」: 「地理的思考力を培い、グローバル・リーダーとして活躍できる資質と能力を養う学習活動 ～『高校生東南アジア小論文コンテスト』への参加を通して～**

「GL地理」は今年度初めての実施となる。グローバルな課題を地理的見地から考察する授業を行っているが、ここでは、神田外語大学が行っている高校生東南アジア小論文コンテストで取り上げているグローバルな課題について小論文を書かせることで、グローバルな課題に対する関心・意欲を高めるとともに地理的見地から思考を深化させる授業を実施した。授業については次のとおりである。

「GL地理指導案」

1 単元名「現代世界の諸地域・東南アジア」

2 単元の目標

- (1) 東南アジア地域の自然環境、社会と文化を理解し、地域ごとの特徴と差異を考察する。
- (2) 資料を活用し、変容する社会を捉える地理的な視点や方法を身につける。
- (3) グローバルな視野から考察・論述させることによって、地理的思考力を培うとともに、グローバル・リーダーとして活躍できる資質と能力を養う。

### 3 単元の構成と評価（全5時間）

東南アジア地誌を学習し、地域への理解を深めたことを踏まえて小論文を執筆する。グループでの資料の検討や分析を通じ、その内容を説明したり自分の考えを論述したりする学習活動を充実する。

作成した小論文を全員が『高校生東南アジア小論文コンテスト』に応募するとともに、校内においてルーブリックにより評価する。

- (1) 東南アジアの歴史と文化・民族（1時間）
- (2) 東南アジアの農業とその変化（1時間）
- (3) ASEANの結成と工業の発展（1時間）
- (4) ASEANの変化と課題（1時間）・本時
- (5) 小論文執筆（1時間）

### 4 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入	『1人あたりGDPと経済成長』の資料からASEAN諸国の経済の現状や課題を知る。	経済成長が一律でないことを理解させる。	
展開	①タイ・ベトナム・インドネシアの3グループに分かれ、『高校生東南アジア小論文コンテスト』から提示された資料を検討する。 ②関連する資料を収集し分析する。 ③情報を整理し、小論文のテーマを決定する。	・生徒が自ら関心を持った国のグループに参加させる。  ・前時までの学習を踏まえ、各国の状況を考察させる。 ・小論文執筆に向けて、必要な資料は何か考えさせる。	関心・意欲・態度  資料活用の技能
まとめ	グループの代表が各国の様子を紹介する。また、本時で検討した内容を発表する。	3か国の相違点を認識させる。  ・次時において小論文を執筆することを予告する。。	

### 5 小論文評価のルーブリック

項目	A	B	C
小論文作成を通して、東南アジア地域への関心を高めることができる。 (関心・意欲・態度)	小論文作成を通して、東南アジア地域を深く理解し、その関心を高めることができる。	小論文作成を通して、東南アジア地域への関心を高めることができる。	小論文作成を通して、東南アジア地域への関心を高めることができない。
課題を考察し、小論文を論理的に構成できる。 (思考・判断・表現)	課題となる記事についての確に考察することができ、小論文を論理的に構成することができる。	課題となる記事について考察することができ、小論文を構成することができる。	課題となる記事について考察することができない。または、小論文を構成することができない。

資料を適切に活用できる。 (資料活用の技能)	関連する資料の選択が的確であり、その資料を十分に活用することができる。	関連する資料を選択し、活用することができる。	関連する資料を選択することができない。または、選択しても活用することができない。
記事を正しく理解できる。 (知識・理解)	課題となる記事を読み正しく理解し知識を深めることができる。	課題となる記事を読み、理解することができる。	課題となる記事を読むことができない。または、理解できない。

### (3) GLアクティブ

大学との連携、関係機関との連携、海外研修等に係るGLアクティブについては後の該当箇所に記載し、ここでは、それ以外の実践を示す。

#### ア 『醸造文化，地域活性化を学ぼう』

(ア) 日 時 平成29年8月3日(木) 午後12時20分～午後5時

(イ) 場 所 ちば醤油(株)(香取市)  
発酵の里こうざき(神崎町)

(ウ) 対 象 21名(1・2学年希望者)

(エ) 目 標 醤油醸造工場並びに発酵食品の展示を見学し、日本における醸造・発酵文化を通じた地域活性化について考察する。また、ハラール認証を取得し、イスラム圏に輸出している醤油を通して日本の食品の可能性について考え、研究課題を見付ける一助とする。

(オ) 内 容 ちば醤油(株)では最初に佐原・小見川地区における醤油醸造の歴史とその製法を解説していただいた。工場では、原料搬入の様子や伝統的な木樽での仕込みの様子、出来上がった醤油を絞る過程などを見学させていただいた。見学後の質疑応答では、伝統的な製法を守ることの難しさ、ハラール醤油を開発し商品化した経緯や製造上の苦労などを伺うことができた。

発酵の里こうざきでは、近隣諸地域で製造される発酵食品の展示を見学し、発酵を利用する食品の多様性や「発酵」を地域活性化に結びつけている様子を見た。また、地域を紹介するパンフレットが複数の言語で作られている様子を見て、課題研究の発表の参考になったという生徒も見られた。

(カ) アンケート結果

#### 【GLアクティブ共通アンケート】(数値は回答数)

① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
9人	10人	2人	0人

② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
6人	11人	4人	0人

③ 今回の GL アクティブの事柄を，外国人に英語で話すことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
0人	4人	14人	3人

④ 今回の GL アクティブの事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5人	16人	0人	0人

⑤ 今回の GL アクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1人	7人	12人	1人

⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
2人	12人	6人	1人

⑦ この GL アクティブは，課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1人	12人	6人	1人

#### 【生徒感想】

- ・ 一見知っているように見える日本の文化のことでも，このように知らないことはたくさんあるので日本の文化にも積極的に目を向けたい。
- ・ 醤油はただの食品ではなくグローバルなビジネスとしても扱われていることがわかった。
- ・ 日本に来る人が安心して日本の食を楽しめる環境があることはとても良いことだと思った。ムスリムだけでなく外国人向けに安心して食べられる食を届けたいと思った。
- ・ 文化や宗教による壁を乗り越えることをあきらめるのではなく創意工夫している姿から学ぶことがたくさんあった。

#### (キ) 成果と課題

発酵・醸造の文化が地域に根ざしたものであり，地域活性化につながることを学び，同時にハラール醤油のように世界へも目を向けたものであることを知る機会となった。ハラール食品は国内向けと海外向けがあり，その両方に対応していく工夫がなされていることも学ぶことができた。見学に際しては多くの質問が寄せられ，生徒の興味・関心が高まったと考えられる。

しかしながら，これらの文化をいかに発信し，伝え，提言していくか，という点ではまだまだ課題が多いと考えられる。今回の見学を機に，その文化を歴史的，地理的により一層の探究を試み，発信する力を育てたい。

#### イ 『江戸博を知ろう』

(ア) 日 時 平成29年8月26日(土) 午後1時～午後4時

(イ) 場 所 江戸東京博物館(墨田区)

(ウ) 対 象 20名(1学年希望者)

(エ) 目 標 グローバル化が進む現代社会の問題(例えば循環型社会の構築など)と江戸

時代の社会問題解決方法などを比較し、研究課題を見つける一助とする。

(オ) 内容 生徒を2班に分けて、江戸東京博物館のボランティアガイドの方(2名)に、博物館の展示を一通り解説していただいた。江戸時代の社会の仕組みや江戸の人々の暮らし、江戸から東京への変化などわかりやすく話していただいた。その後は、自由に興味を持った分野などを見学した。

(カ) アンケート結果

【GLアクティブ共通アンケート】(数値は回答数)

① 日本や地域の歴史・伝統・文化、社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
11人	9人	0人	0人

② 外国の歴史・伝統・文化、社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
7人	5人	8人	0人

③ 今回のGLアクティブの事柄を、外国人に英語で話すことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1人	2人	15人	2人

④ 今回のGLアクティブの事柄を、友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
8人	8人	4人	0人

⑤ 今回のGLアクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
3人	5人	12人	0人

⑥ 課題研究に関する新たな(異なる)視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
2人	8人	10人	0人

⑦ このGLアクティブは、課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
3人	6人	11人	0人

### 【生徒感想】

- ・昔の日本から、グローバル化が進む現代の社会問題解決方法が見つけれられる気がする。特に江戸時代の防災、明治時代の国交に興味を持った。
- ・多くの外国人が博物館を訪れていて、外国人にもわかるようにいろいろな工夫がされていた。
- ・江戸から東京になるまで、どのように西洋の文化が入ってきたのかなど、展示物を見ながら詳しく学び取ることができた。
- ・江戸から東京の生活様式や都市の移り変わりなどに深く掘り下げて調べてみたい。
- ・江戸時代の町人の生活がよくわかった。また、明治・昭和への時代の移り変わりを通して、現在につながることをこれからじっくりと考えていきたい。

(キ) 成果と課題

日本の歴史，特に近世・近代という現代と大きくつながる部分の歴史を学び，グローバルな課題を考えるためのヒントが得られた。しかし，感想を見る限りでは歴史を学習したというだけで終わっている生徒が多いので，興味を持った分野と現代の問題とを結びつけることが課題である。防災や都市の移り変わり，生活の様式の変化に興味を持った生徒も多く，現代ともつながりそうな分野なので，今後に期待したい。

一方，生徒から質問などはあまりなく，積極性という意味では少し物足りない印象を受けた。あまり，テーマを絞らないまま博物館を案内していただいたことで，焦点が絞れない生徒がいたようだ。テーマを明確に示すなど改善が必要である。

ウ 『難民問題を考える -難民を助ける会，さぼうと21』

(ア) 日 時 平成29年8月24日(木) 午後2時～午後3時45分

(イ) 場 所 本校地域交流施設

(ウ) 対 象 21名(1・2学年希望者)

(エ) 目 標 2年生は課題テーマについて理解を深める一助とする。1年生は「難民問題」についての講義を通して，課題テーマ決定の一助とする。

(オ) 内 容 「難民を助ける会」小田隆子氏「さぼうと21」中谷多賀子氏より国内外の難民支援について話を伺う。

中谷氏より，インドシナ難民の受け入れから始まった日本の難民受け入れは，条約難民以外にも人道上の難民，第3国定住難民を主に東南アジアから受け入れていること，難民と認定された場合に受けられる支援について，難民以外にも南米からの日系定住者，中国からの帰国者など支援が必要な人は多いこと，生活で精一杯な家族のための教育支援の重要性等について説明があった。小田氏より，世界の難民の実態について，特にシリア難民を多く受け入れている隣国トルコが行っている支援について，緊急支援と継続支援の違い，「難民を助ける会」の具体的な支援内容等について説明があった。

また，高校生としてできる支援の具体例があり，終了後，Q&Aが行われた。

(カ) アンケート結果

【GL アクティブ共通アンケート】(数値は回答数)

① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
3人	14人	4人	0人

② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
9人	10人	2人	0人

③ 今回のGL アクティブの事柄を，外国人に英語で話すことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
0人	4人	15人	2人

④ 今回のGL アクティブの事柄を，友人等と話し合うことができる。



おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
7人	12人	2人	0人

⑤ 今回の GL アクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5人	8人	8人	0人

⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
2人	8人	9人	1人

⑦ この GL アクティブは、課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
2人	10人	6人	0人

#### 【生徒感想】

- ・情報を共有することでも支援につながる、「いいね」を推すだけでも支援につながるということがわかり良かった。
- ・難民支援と言っても国内国外で、また緊急か継続かで支援の形が違うことがわかった。
- ・国内の難民に対して「難民」というレッテルを貼らずに「生活者」として見る視点が大切である、というのはとても重要な点だと思った。
- ・私たちにでも行えるような、学習支援や交流を増やすことについて考えてみるのもよいと思う。
- ・今回お話を伺ったような NPO、NGO の活動に大変興味があった。

#### (キ) 成果と課題

実際に支援に携わっている人から具体的な話を伺えたことで、難民問題をより具体的に捉えることができた。高校生に何ができるかという視点に近づいていけたのではないかな。

講義形式にしていただいたが、高校生にできることを更に具体的に考えるワークショップ形式のほうが、研究を進める上での手助けになるかもしれない。1・2年生対象としたが、やはり研究のどの段階で行うのかを考えるべきである。